

未来への投資、活力ある香川を目指して。

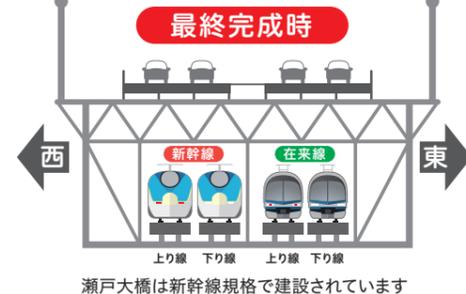
四国新幹線で

交流人口と企業立地を促進する 香川創生と人口減少対策！

地域経済の活性化や観光振興を始め、災害に強い地域づくりのため、四国の新幹線は必要です。既に新幹線規格で整備されている瀬戸大橋の有効活用も期待されています。

この実現に向けては、「新幹線を四国に！」という地元の熱い思いが重要であり、我が会派としては、これまで、香川県議会地域公共交通活性化促進議員連盟を通じて、県内各地でシンポジウムを開催するなど積極的な取り組みを進めてきました。

人口減少や高齢化が進む本県の実情を踏まえると、一日も早い、国による整備計画格上げに向けた調査・検討の着手が必要であり、引き続き、地元の機運の醸成を図るとともに、国への要望活動を実施するなど四国の新幹線実現に向けて、しっかりと取り組みます。

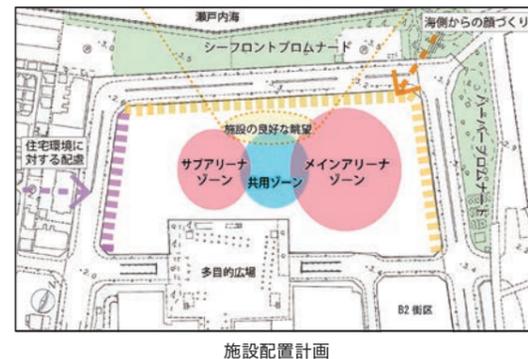


新香川県立体育館で

海陸の結節拠点として 中核的機能を伸ばす！

平成35年度の開設を目指している新香川県立体育館の建設予定地であるサンポート高松は、公共交通機関のアクセスが良好で、かがわ国際会議場をはじめとするMICE関連施設や宿泊施設等にも近接しており、また、瀬戸内海に面した素晴らしい眺望にも恵まれています。

今後、基本・実施設計を行うこととなりますが、こうした立地を生かして地域の活性化を図るため、利用者が利用しやすく、機能性、収益性やデザイン性に優れた魅力ある施設にする必要があります。



交通アクセスや駐車場の整備、スポーツ以外のイベントへの活用、サンポート地区のにぎわいづくり、管理運営方法など多くの課題がありますので、十分に議論していきます。

さぬき動物愛護センターで

人にも動物にもやさしい 香川づくり拠点を整備！

香川県では、捕獲・収容される犬猫の数や殺処分数が多いことから、人と動物との調和のとれた共生社会づくりを目指して、動物愛護の拠点となる施設を整備することとしました。

現在、高松市東植田町の公洲森林公園の西端に、延べ床面積944㎡の施設を建設しており、今年度中の開設を目指しています。

センターには、犬60頭、猫30匹を収容可能な犬舎・猫舎や、検疫室、手術室、ふれあいルーム等を設けるとともに、ドッグランやふれあい



完成イメージ図

広場などの屋外設備も整えます。

これにより、犬猫の譲渡推進をはじめ、「命の大切さ」や「思いやり」の心をはぐくむ体験学習、犬や猫のしつけ方・飼育教室、ボランティアとの情報交換等が行えるようになります。

確かな足跡、そして活動実績。



1 香川の諸課題に正面から切り込む プロジェクトチーム活動

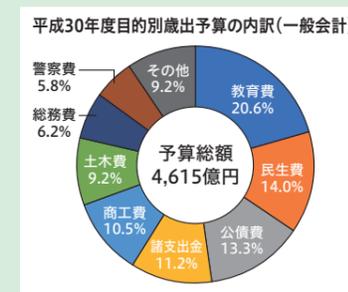
我が会派では、県政の重要施策について調査研究をするため、4つのプロジェクトチームを設置しています。平成29年度は、「デジタル情報の活用」、「気候変動・変化と将来予測」、「データと制度動向から自治体病院の経営を考える」、「国内外の誘客施策」、「オリーブ畜産物のブランド化の推進」など、合わせて16回の勉強会を開催しました。



知事への緊急要望

3 鳥インフルエンザ対策への 迅速な対応で被害拡大をブロック

本年1月、さぬき市で高病原性鳥インフルエンザが発生。直ちに養鶏業者や鶏卵販売業者と意見交換を行うとともに、徹底した感染防止対策、養鶏農家等への支援など7項目について、知事に対して緊急要望を実施。殺処分や家きん舎の消毒などが迅速に行われたことにより、大きな風評被害もなく、移動制限区域の解除をすることができました。



5 知事への予算編成要望で 最重要事項等の早期実現を目指す

本県財政が引き続き厳しい状況にある中、真に必要な高い効果的な事業に重点化を図る必要があることから、知事に対して新年度予算編成への要望を行いました。人口減少対策や景気対策など、最重点事項29項目、重点事項95項目を要望したものであり、平成30年度の一般会計予算規模は、4,615億円となりました。



株式会社トクヤマ(山口県周南市)

2 廃棄物再資源化の最新工場視察で 香川の問題解決に寄与

株式会社トクヤマ徳山製造所を訪れ、省資源・再生可能エネルギーの活用について調査。工場では、有機汚泥、焼却灰、廃プラスチックなどをセメントの原料や熱エネルギーとして利用しており、高度な技術を駆使した再資源化の取り組み状況を視察しました。香川県からも下水道汚泥等を受け入れ、リサイクル資源として活用しているとのことでした。



4 国等への意見書提出を通じて 香川県の重点施策を強力推進

地方自治法では、地方議会は、地方公共団体の公益に関する事件につき、国会又は関係行政庁に対して「意見書」を提出することができると規定されています。国等に本県の実情を知ってもらい、重点施策を強力に推進することができるよう、我が会派では、県民の意見や要望などを十分に把握したうえで、積極的に意見書を提出するようにしています。



オリーブ地鶏

6 新ブランド「オリーブ地鶏」の 生産強化と販路拡大を後押し

平成30年2月定例会において、我が会派の代表質問で県産品の販路拡大を取り上げました。オリーブを活用した鶏肉の開発状況を質したのに対し、知事から、「オリーブ地鶏」として、3月下旬の販売開始に向けて準備を進めており、今後、生産から流通・販売まで一体となった体制を構築し、効果的な情報発信や販売促進に努めるとの答弁がありました。